

人と支え合えるあたたかさ

太田市立太田中学校二年

漏田 大輝

夜の中に、鮮やかで大きなねぷたが浮かび上がり、太鼓の大きな音が街中に響き渡る。

ぼくは昨年、太田市で行われる交流行事である「弘前ねぷた交流団」の一員として、弘前市へ行き、弘前ねぷた祭りに参加しました。地域の人たちがみんなで声を掛け合い、たくさんの方の大きなねぷたを動かしている様子や、

道で見ている人たちの笑顔は、とても明るく、楽しそうでした。学校も学年も違う交流団の仲間たちや、初めて会った弘前市の人たちと一緒に過ごしたこの体験は、ぼくに人と人との「つながり」の温かさを教えてくれました。そしてこれが、犯罪や非行のない、みんなが安心して暮らせる明るい社会を作るために一番大切なことなのだと、ぼくは考えます。学校で「社会を明るくする運動」の作文を書くと言われたとき、「犯罪や非行をなくそう」

と言われても、自分にはあまり関係がないので、難しそうでした。でも、弘前ねぷた交流団での活動を思い返したとき、この活動が社会を明るくするための活動なのではないか、ということに気づきました。

ねぷたの運行は、絶対に一人ではできません。ねぷたを引っ張る人、楽器を演奏する人などのたくさんの人が役割を持ってみんなで協力し合っているからこそ、ねぷた祭りがあると思います。お祭りの途中、長い距離を歩

いて、ぼくは少し疲れてしまったことがあります。そのとき、隣にいた弘前市の中学生の子が「あと少しだから一緒にがんばろう。」と笑顔で励ましてくれました。そのときぼくは、すごくホッとしたのを覚えています。自分が初めて行く場所なのに、みんなに見守られていたような、とても温かい気持ちになりました。この誰かに見守られている安心感が、人が寂しさを感じたり、犯罪や非行をしないために、とても大切なことなのだと思います。

今の社会では、人と人との付き合いが少なく、地域の中で関わりがないと聞きます。もし、誰にも悩みを相談できずに一人ぼっちになってしまったら、寂しい気持ちや不安になって、いけないことだと分かっている、非行や犯罪をしてしまうことがあるかもしれせん。また、一度失敗をしてしまった人が「もう一度がんばろう」と思っても、周りの人が冷たい態度をとったり、仲間外れにしたりしたら、その人はまた一人ぼっちになってしまいます。

しかし、ぼくたちの社会が、あの弘前ねぶたのときのような、お互いに声をかけ合って支え合えたらどうでしょうか。寂しい思いをしている人や、つまずきそうな人に対して、周りのみんなが温かく接することができれば、一人ぼっちの不安や寂しさを防げると思います。誰かを一人ぼっちにさせない社会にすることが、社会を明るくするための方法なのだと、感じます。

弘前ねぶた交流団でぼくが学んだ「みんな
で支え合うこと」の大切さは、お祭りの日だ
けでなく、普段の生活にも必要なことだと思
います。中学生のぼくには大きなことはで
きませんが、学校の友達や近所の人に自分か
ら元気に挨拶をすることなら今すぐできます。
クラスで一人にいる子がいたら声をかけたり、
困っている人がいたら「大丈夫？」と話しか
けることはできます。そうした一人ひとりの
小さな優しさが集まることで、誰もが安心し
て過ごせる温かい地域や社会が作られていく
のだと思います。

ぼくはこれから、周りの人を温かい気持ち
にできる人になりたいです。そして、みんな
が笑顔で暮らせる「明るい社会」にするた
めに、まずは自分の身近な学校や地域の中か
ら、優しさの輪を広げていきたいです。